

第3次中津市
子ども読書活動推進実施計画
～ 学びの里読書プラン～



令和6年3月
中津市

目 次

第1章 第3次計画策定にあたって	1
1. 計画策定の趣旨	
2. 計画の位置付け	
3. 計画の目標及び基本施策	
4. 第3次計画の基本的な考え方	
5. 計画の期間	
6. 計画の対象	
第2章 第2次計画における成果と課題	
◆子ども読書活動推進実施計画(第2次)達成状況	4
基本施策 I 中津市全体における子ども読書活動の推進	
(1) 家庭における子ども読書活動の推進	8
① 乳幼児の読書活動の推進	
② 子どもの郷土愛を育むための読書活動の推進	
(2) 地域における子ども読書活動の推進	9
① 図書を利用した行事の推進	
② おはなし会の充実	
③ 読み聞かせボランティアの活動連携	
④ 家庭教育学級における学習の充実	
⑤ 地域子育て支援拠点等における子ども読書活動の推進	
(3) 幼稚園、保育所(園)、認定こども園における子ども読書活動の推進	17
① ボランティア団体等とのネットワーク構築	
② 読み聞かせ絵本環境の整備・充実に関する研修会の実施	
(4) 小・中学校における子ども読書活動の推進	18
① 小・中学校における子ども読書活動の推進	
② 障がいがある子どもの読書活動の推進	
③ 家庭・地域との連携による読書活動の推進	
④ 学校図書館活用教育の推進	

(5) 図書館における子ども読書活動の推進	20
① 学校と図書館との関係の強化	
② 子どもの図書館カードの普及	
③ 子ども読書活動に対する支援	
④ 図書館職場体験の紹介	
⑤ 除籍図書の再利用	

基本施策Ⅱ 施設の充実

(1) 市立図書館の充実	25
① 図書資料、視聴覚資料の充実	
(2) 学校図書館の充実	28
① 図書資料の充実	
② 学校図書館のネットワーク化	
③ 学校図書館への人的配置の推進	
(3) インターネットの活用	29
① 子ども用ホームページの推進	

基本施策Ⅲ 連携・協働

(1) 図書館相互の連携・協働	30
① 県立図書館、市町村立図書館との連携強化	
② 市立図書館と学校図書館との連携、貸借や情報交換の強化	
(2) 図書館と関係機関(団体)との連携・協働	31
① 市立図書館と関係機関(団体)との連携・協働	

第3章 具体的方策

基本施策Ⅰ 中津市全体における子ども読書活動の推進

(1) 家庭における子ども読書活動の推進	34
① 乳幼児の読書活動の推進	
② なかつ学びんぴっくによる読書活動の推進	
(2) 地域における子ども読書活動の推進	36
① 図書を利用した行事の推進	
② おはなし会の充実	
③ 読み聞かせボランティアの活動連携	

④ 家庭教育学級における学習の充実	
⑤ 地域子育て支援拠点等における子ども読書活動の推進	
(3) 幼稚園、保育所(園)、認定こども園における子ども読書活動の推進	39
① ボランティア団体等とのネットワーク構築	
② 読み聞かせや絵本環境の整備・充実の促進	
(4) 小・中学校における子ども読書活動の推進	40
① 小・中学校における子どもの読書活動の推進	
② 多様な子どもたちの読書機会の確保	
③ 家庭・地域との連携による読書活動の推進	
④ 学校図書館活用教育の推進	
(5) 図書館における子ども読書活動の推進	43
① 学校と図書館との関係の強化	
② 子どもの図書館カードの普及	
③ 子どもの読書活動に対する支援	
④ 図書館職場体験の紹介	
⑤ 除籍図書の再利用	

基本施策Ⅱ 施設の充実

(1) 市立図書館の充実	46
① 図書資料、視聴覚資料の充実	
(2) 学校図書館の充実	47
① 図書資料の充実	
② 学校図書館と市立・県立図書館のネットワークの充実	
③ 学校図書館への人的配置の推進	
(3) デジタル社会に対応した読書活動の整備	49
① 図書館のDXの推進	
② タブレット端末を活用した読書・学習環境の整備	

基本施策Ⅲ 連携・協働

(1) 図書館相互の連携・協働	50
① 県立図書館、市町村立図書館との連携の強化	
② 市立図書館と学校図書館との連携、貸借や情報交換の強化	
(2) 図書館と関係機関(団体)との連携・協働	51
① 市立図書館と関係機関(団体)との連携・協働	

資料 (アンケート結果)	53
--------------	----

第1章 第3次計画策定にあたって

1. 計画策定の趣旨

子どもにとって読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

国においては、令和5年3月28日、子どもの読書活動の推進に関する法律(平成13年法律第154号。以下「法律」という。)に基づき、第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定されました。これは、政府がおおむね5年ごとに策定するもので、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を目的としています。すべての子どもたちが読書活動の恩恵を受けられるよう「1. 不読率の低減」、「2. 多様な子どもたちの読書機会の確保」、「3. デジタル社会に対応した読書環境の整備」、「4. 子どもの視点に立った読書活動の推進」を考慮しながら、社会全体で子どもの読書活動を推進する必要があるとしています。

大分県では、令和2年3月に「第4次大分県子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもが自ら進んで読書に親しみ、読書習慣を身に付けていくとともに、読書活動を通じて、生涯にわたって豊かな人生を送ることができるよう、市町村や読書関係団体等と連携・協力し、子どもの読書活動が一層推進されるよう積極的に取り組んでいます。

中津市では、こうした国・県の動向を踏まえ、市の教育振興基本計画の方針に沿って、平成26年1月に「中津市子ども読書活動推進実施計画」～学びの里読書プラン～を策定し、5年ごとに見直しを行いながら、子どもの読書活動の推進に取り組んできました。しかしながら、学校段階が進むにつれて子どもの読書離れが進む傾向は依然として続いており、早期の読書習慣定着や発達段階に合わせた読書活動支援が課題となっています。

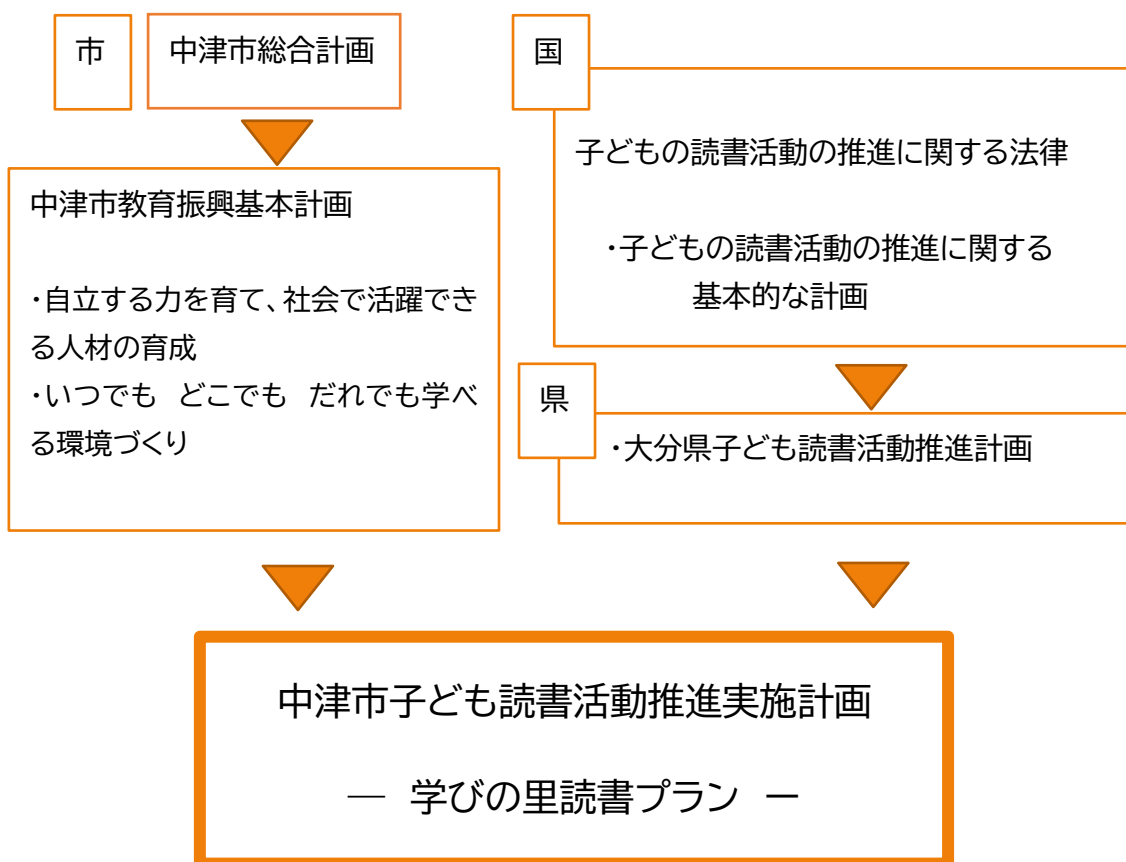
このたび第2次計画の計画期間が終了することから、これまでの取組の成果と課題を踏まえ、中津市子ども読書活動推進実施計画の目標である「読書を通じて、学びはじめ、学び合い、学びつづける子どもの育成」を達成するため、今後おおむね5年間にわたる施策の基本方針と具体的な方針を定めるものです。

2. 計画の位置付け

「子どもの読書活動推進に関する法律」(平成13年法律第154号)に基づく、市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画として策定します。

また、「中津市総合計画」の教育分野の個別計画である「中津市教育振興基本計画」に基づき、子どもの読書活動の充実を図るための計画として策定します。

◆中津市子ども読書活動推進実施計画の位置づけ

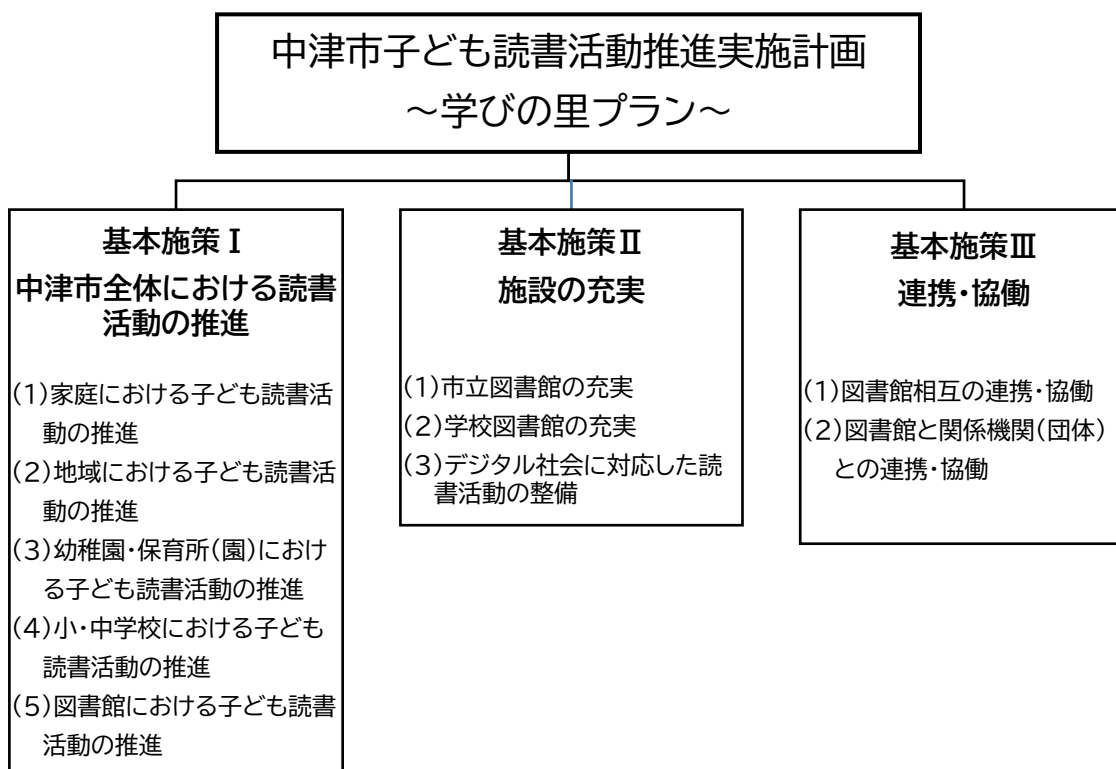


3.計画の目標及び基本施策

中津市子ども読書活動推進実施計画は、読書をはじめのきっかけづくりや主体的な読書活動を生涯にわたって自らが学ぼうとする読書活動の習慣化を図り、子どもの読書活動がより活発になるように「読書を通じて、学びはじめ、学び合い、学びつづける子どもの育成」を目標とし、三つの基本施策「中津市全体における読書活動の推進」「施設の充実」「連携・協働」の方針を掲げ、その施策を総合的・計画的に実施し子どもの読書活動を推進します。

【 目 標 】

読書を通じて、学びはじめ、学び合い、学びつづける子どもの育成



4. 第3次計画の基本的な考え方

第3次計画では、第2次計画の成果と課題、国の第5次基本計画に基づき、第2次計画の基本施策と取組項目を継承しつつ、課題解決に向けた具体的な取組をより具体的に重点的に推進します。

5. 計画の期間

令和6年度から令和10年度までの5年間とします。

6. 計画の対象

この計画の対象は、おおむね18歳までの子どもとしますが、子どもの読書活動の推進に関わる保護者をはじめ、読み聞かせボランティア、行政関係者等も含まれます。

第2章 第2次計画における成果と課題

◆子ども読書活動推進実施計画(第2次)達成状況

中津市では、令和元年度に、第2次中津市子ども読書活動推進実施計画を策定し、3つの基本施策を基に取組項目ごとに取組の方針を定め子どもの読書活動の推進を行ってきました。

第2次計画で掲げた26項目の取組の方針について、3段階で評価を行いました。評価区分と評価の理由については以下のとおりです。

自己評価の判定基準

区分	着眼点
A	計画どおりにできた
B	概ね計画どおりにできた(目標をある程度達成したが、今後の改善・検討が必要)
C	できなかった

取組指標と評価一覧(令和元年度～令和4年度実績)

施策名	取組項目	取組の方針	自己評価	評価の理由	所管課
基本施策1	(1) 家庭における子ども読書活動の推進	乳幼児の読書活動の推進	B	「おはなし会」や「赤ちゃんおはなし会」などを開催し、読み聞かせの大切さを、保護者へ伝えることができたが、赤ちゃん絵本事業においては、取組指標の実施参加率95%以上に対して70%台まで実施率が減少したため。7か月健診の受診者については、おおむね実施できているが、未受診者への対応について検討が必要。	図書館
		子どもの郷土愛を育むための読書活動の推進	B	新学期に小学3年生と中学1年生にそれぞれ公式ガイドブックを配布して検定試験の案内はしたが、なかつ学びびんびんの参加者は少なかったため。	社会教育課
中津市全体における子ども読書活動の推進	(2) 地域における子ども読書活動の推進	図書を利用した行事の推進	A	各館が独自に趣向を凝らした行事やイベントを行い、幼児から児童まで幅広く読書の楽しさを広めることで子供の読書活動の推進につなげることができた。取組指標の毎年2回以上の開催を達成できた。	図書館
		おはなし会の充実	A	「幼児向けおはなし会」を毎週1回、「赤ちゃんおはなし会」を月1回、読書週間のおはなし会を年2回開催し、取組指標を達成できた。また、申し込みを電子申請化することで、参加者の利便性の向上も図ることができたため。	図書館
		読み聞かせボランティアとの連携	A	毎年、研修会や情報交換会への参加や意見交換会を行うことでボランティアの活動を応援し、取組指標を達成した。また、SNSを利用した図書館とボランティア間の連絡体制の確立により、緊急時の連絡やボランティア参加者数の把握など読み聞かせボランティアの利便性の向上を図ることができたため。	図書館
		家庭教育学級における学習の充実	B	各種講座の中に読み聞かせなどを実施して講座生には講評だったが、講座生が少ない年もあったため。	社会教育課
		地域子育て支援拠点等における子ども読書活動の推進	A	大型絵本や時季に合わせた読み聞かせ、紙芝居を月に1度開催し、子育て情報誌で広告・宣伝することにより、親子で本に触れる機会の提供を継続することができた。また、年齢に応じた絵本の購入や寄贈図書の配付により、本の蔵書数を増加することができたため。	子育て支援課
		幼稚園、保育所(園)、認定こども園における子ども読書活動の推進	ボランティア団体等とのネットワーク構築 読み聞かせや絵本環境の整備・充実に関する研修会の実施	C B	コロナ禍により外部との交流が難しくなり、目標値の達成ができなかったため。 読み聞かせ等の取組は各施設で実施できているが、研修会はコロナ禍の影響もあり、実施できていないため。
(4) 小・中学校における子ども読書活動の推進	小・中学校における子どもの読書活動の推進	A	朝読書と図書館活用授業とも、概ね取組指標を達成しているため。学校図書館活用授業に関しては、さらに司書と教員の情報共有を図っていく。	学校教育課	
	障がいのある子どもの読書活動の推進	B	学校図書館司書と特別支援学級担任とが情報共有しながら児童生徒の実態に合った図書の整備を進めてきているが、支援の必要な全ての子どものニーズに合った図書が十分に整備されているとは言えないため。	学校教育課	
	家庭・地域との連携による読書活動の推進	B	新型コロナウイルス感染予防の面から約3年間読み聞かせなどの活動が制限されたが、放送やZoomを使った読み聞かせ等読み聞かせグループの方の工夫も見られたため。	学校教育課	
	学校図書館活用教育の推進	A	新型コロナウイルス感染予防の面から約3年間読み聞かせなどの活動が制限されたが、放送やZoomを使った読み聞かせ等読み聞かせグループの方の工夫も見られたため。	学校教育課	

第3次中津市子ども読書活動推進実施計画 ～学びの里読書プラン～

施策名	取組項目	取組の方針	自己評価	評価の理由	所管課
基本施策Ⅰ	(5) 図書館における子ども読書活動の推進	学校と図書館との連携	A	司書会への参加、連絡調整会議を毎年1回以上行い、取組指標である連携の強化を図ることができた。学校図書館だより、YA(ヤングアダルト)向け図書館だよりを学校図書館あてに配布し、読書の啓発を行った。学校図書館司書に対し、ヤングアダルト世代の興味や傾向の調査を行い、ニーズにあった図書を整備することができた。	図書館
中津市全体における子ども読書活動の推進		子どもの図書館カードの普及	A	未就学児の図書館カードの登録率は取組指標の10%以上を達成することはできなかったが、新たに出生時や拠点施設利用時等に図書館カードの作成案内等の取組みを開始した。小学校入学時には学校を通じて図書館カードの作成案内を行い、新一年生のカード登録に繋げることができた。また、カード登録の電子申請を開始し、利便性向上により新規登録を促進することができたため。	図書館
		子ども読書活動に対する支援	A	取組指標である「図書館おすすめ本リスト」の改訂版作成を令和3年に、「えほんリスト」の改訂版作成を令和4年に行い、読み聞かせボランティアに提供した。保護者に向けて図書館等で配布を行っている。また小中学生向けのおすすめ図書リストはホームページのこどもページからも閲覧できるようにしたため。	図書館
		図書館職場体験の紹介	B	「一日図書館司書体験」については、旧下毛地区で応募者がいない学校があり取組指標を達成することができなかったが、中学生を対象とした職場体験ではコロナ禍を除き取組指標を達成することができたため。	図書館
		除籍図書の再利用	B	取組指標の再利用100%を達成することはできなかったが、学校司書を通じて学校図書館へ、また子どもが関わっている施設、読み聞かせサークルにも声掛けをし再利用を行うことができた。また、年2回の読書期間中には一般利用者への無料配布も実施し、除籍図書の有効利用をすることができたため。	図書館
基本施策Ⅱ	(1) 市立図書館の充実	図書資料、視聴覚資料の充実	B	児童書の貸出数については取組指標の8割程度しか達成できなかったが、学校図書館司書やボランティアと連携し、調べ学習や読み聞かせ資料の充実を図ることができたため。また、上映会鑑賞者数については、概ね取組指標を達成することができ、図書館とのつながりを深めることができたため。	図書館
施設の充実	(2) 学校図書館の充実	図書資料の充実	B	図書標準を満たすように整備と廃棄を行ってきたことで図書資料は充実してきたが、まだ約15%の学校が図書標準の達成ができていないため。	学校教育課
		学校図書館のネットワーク化	A	大分県図書館情報ネットワーク(OLIB)には、全ての学校が登録できており、学校図書館司書と市立図書館の情報交換・研修もできたため。	学校教育課
		学校図書館への人的配置の推進	B	学校図書館司書25名、学校図書館支援ボランティア1名配置は維持できているが、年度当初に欠員が生じることが複数年あったため。	学校教育課
	(3) インターネットの活用	子ども用ホームページの推進	A	子ども用のホームページのトップページを分かりやすくリニューアルしたり、小学校向け図書館だよりに子ども用ホームページの案内を掲載するなど、利用を促した。コンテンツも新刊、上映会、今月の企画などの情報に加えおすすめ図書リストを追加するなど、図書館の新しい情報をより多く発信したことから取組指標は達成できた。	図書館
基本施策Ⅲ	(1) 図書館相互の連携・協働	県立図書館・市町村立図書館との連携の強化	A	大分県の所蔵資料横断検索システムなどを通じて県内公立図書館と年に100冊以上の児童書を相互貸借し、取組指標を達成した。また、県立図書館主催の研修会へ参加し、先進事例等の情報収集することで子どもの読書活動を推進できたため。	図書館
連携・協働		市立図書館と学校図書館との連携・貸借や情報交換の強化	A	司書会への参加や連絡調整会議の開催などで図書館資料活用のPRを行い、学校図書館司書のからリクエストやレファレンスを年間約30～60件受付けており、取組指標は達成できた。学校図書館司書からの意見や要望等も積極的に聞き、連携の強化を図ることができたため。	図書館
		図書館と関係機関(団体)との連携・協働	B	子ども読書活動を円滑に推進していくため、毎年、市の関係課と本計画の進捗管理や課題整理に努めた。図書館協議会委員について、多くの意見や要望を得られるよう各分野で活躍されている方を市の関係課から推薦してもらった。協議会の開催回数については、取組指標を達成することが出来なかった。	図書館

基本施策Ⅰ 中津市全体における子ども読書活動の推進

(1) 家庭における子ども読書活動の推進

① 乳幼児の読書活動の推進

(1)「おはなし会」、「赤ちゃんと絵本事業」、「あかちゃんタイム」、「赤ちゃんおはなし会」の充実

家庭における乳幼児の読書活動の推進として、毎週月曜日に未就学児を対象とした「おはなし会」、毎月第3水曜日に0歳児を対象とした「あかちゃんタイム」「赤ちゃんおはなし会」を実施し、絵本の選び方など子育てを応援できるようにおすすめ本リストの配布や子育て応援コーナーの設置など読書推進を行いました。

「赤ちゃんと絵本事業」としては、読み聞かせや読書の大切さを保護者へ伝え、子どもたちが読書の楽しさを知ることが出来るように働きかけを行いました。読み聞かせボランティア(*1)による絵本の読み聞かせが出来ない間については、ブックスタートのオンライン研修を実施しました。

(2)家読(*2)の推進

7ヶ月健診会場において、職員と読み聞かせボランティアによる絵本の読み聞かせをし、家庭で保護者が読み聞かせが出来るよう、絵本2冊のプレゼントも行いました。

成 果

(1)未就学児を対象とした「おはなし会」を毎週1回、0歳児を対象とした「あかちゃんタイム」「赤ちゃんおはなし会」を月1開催し、小さいころから子どもが本に興味を持ち、図書館に親しむ機会を提供することができました。また、「赤ちゃんと絵本事業」では、読み聞かせボランティアによる読み聞かせを行うことで、読み聞かせの方法や読書の大切さを保護者へ伝えることができました。コロナ禍では、読み聞かせボランティアによる絵本の読み聞かせが中止となりましたが、「乳幼児からの読書推進のための絵本リスト」を絵本と一緒に渡すなど、保護者へ家庭での読み聞かせの推進を行いました。令和5年5月からは読み聞かせボランティアによる読み聞かせを再開し、保護者に対面で読み聞かせの大切さを伝えることができるようになり、より関心を持ってもらえるようになりました。

(2)絵本をすぐに手に取って読めるように、「赤ちゃんと絵本事業」として、絵本のプレゼントを行い、家読の推進を行いました。

課題

- ・最近では個別健診を受ける親子が増えたため、健診会場での受診が常に予定人数より少なくなっています。それにともない「赤ちゃん絵本事業」の参加率も下がっており、取組指標(実施参加率95%)を大きく下回っています。個別健診の場合は、書面で絵本のプレゼントの案内をしていますが、図書館まで取りに来なくてはならないため、取りに来ない人もいます。「赤ちゃん絵本事業」について、もっと知ってもらう必要があります。
- ・乳幼児等の保護者を対象としたアンケート(資料—子どもの読書に関するアンケート結果より)からも、絵本をプレゼントされた保護者の9割以上がその絵本を使った読み聞かせを行っており、絵本の読み聞かせは子どもの成長に役立つと考えていることから、絵本のプレゼントは家庭での読み聞かせにつながると考えられるため、今後も継続して取り組みを行います。

【参考】

○赤ちゃん絵本事業 実施人数 (実施参加率95以上) (単位:人, %)

年 度	対象者数	受診者数	実施人数			実施参加率
			健診会場	図書館	合計	
令和元年度	629	603	602	1	603	95.9
令和2年度	679	629	628	2	630	92.8
令和3年度	756	583	531	53	584	77.2
令和4年度	698	559	558	1	559	75

*1 読み聞かせボランティア … 小幡記念図書館が募集をして、「赤ちゃん絵本事業」などに関わる方です。

*2 家読(うちどく) … 「家庭読書(家族読書)」の略語で「家族ふれあい読書」を意味し、「家族みんなで読書をすることで家族のコミュニケーションを深める」ことを目的とした読書運動です。

② 子どもの郷土愛を育むための読書活動の推進

(1)「なかつ学びんぴっく(子ども中津検定)・(ジュニア諭吉検定)公式ガイドブック」の配布

学校や家庭においてふるさと中津についての学びを深められるよう、小学校3～6年生に対しては中津市の自然、偉人、文化などについてまとめた「なかつ学びんぴっく(子ども中津検定)公式ガイドブック」を、中学校1～3年生に対しては郷土の偉人福澤諭吉についてまとめた「なかつ学びんぴっく(ジュニア諭吉検定)公式ガイドブック」を配布しました。

小学校では、社会科の副読本として「なかつ学びんぴっく(子ども中津検定)公式ガイドブック」を活用しました。

(2)検定試験の実施

子どもたちが学びの成果を確認できる「なかつ学びんぴっく(子ども中津検定)・(ジュニア諭吉検定)」を実施しました。

成 果

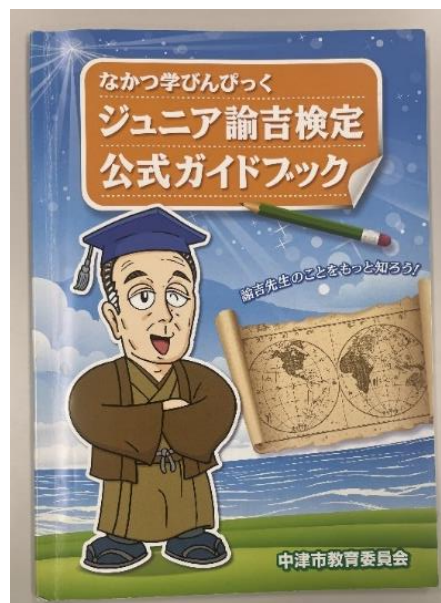
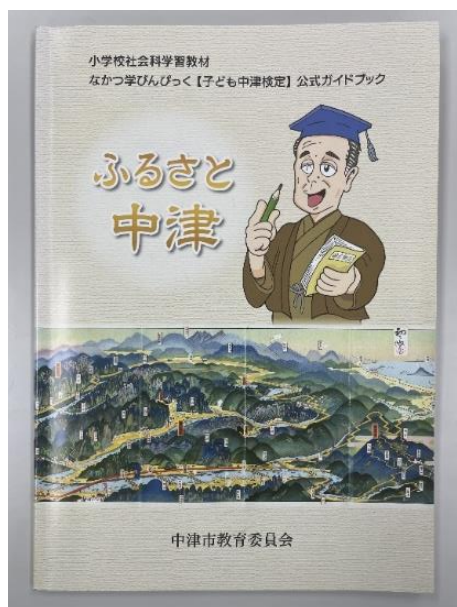
(1)毎年、新たに小学校3年生になる児童及び中学校1年生になる生徒にそれぞれ公式ガイドブックを配布し、継続的に事業に取り組みました。

小学校の社会科の授業で公式ガイドブックを使って、調べたり、学んだりすることで、ふるさと教育としても取り組みました。

(2)検定試験の参加者は、コロナ禍もあり少なかったです。

課 題

検定試験の参加者を増やすため、今後も周知を行っていきます。



【「なかつ学びんぴっく(子ども中津検定)・(ジュニア諭吉検定)」公式ガイドブック】

(2) 地域における子ども読書活動の推進

① 図書を利用した行事の推進

◎夏休み工作あそび教室、読書週間行事

- ・小学生を対象とした夏休み工作あそび教室を開催し、図書館に所蔵する本に載っている工作物を子どもたちが作るサポートを行いました。
- ・春、秋の読書週間に市立図書館5館がそれぞれ、クイズやおはなし会など読書に関する企画を実施しました。

成果

- ・各館が独自に趣向を凝らした行事やイベントを行い、幼児から児童まで幅広く読書の楽しさを広めることができ、子どもの読書活動の推進につながりました。
- ・実施後に全館が集まり、各館から報告を受け情報交換することで、ブラッシュアップすることができました。

課題

- ・参加者を増やすためには、周知方法等の工夫が必要となります。

【参考】

○夏の工作教室

年 度	実施内容	※()は参加人数
令和元年度	(小幡)「ネイチャークラフト(どんぐりアート)・まが玉・バードコールをつくろう」	(35人)
	(耶馬溪)「夏休み自由工作」	(15人)
令和2年度	(小幡)「ポップアップカードづくり」	(9人)
	(本耶馬溪)「フィルムコーティング体験教室」	(4人)
	「本のカバーを使った“オリジナルバック”作り教室」	(4人)
	(耶馬溪)「しおりをつくってみませんか」	(3人)
令和3年度	(小幡)「手作り芳香剤」	(15人)
	(耶馬溪)「ミニ絵本としおりづくり」	(14人)
	(山国)「しおりづくり」	(22人)
令和4年度	(小幡)「“たんけんライト”を作ろう！」	(30人)
	(三光)「本の紹介コメントを書いてみよう」	(25人)
	(本耶馬溪)「紙の懐中電灯が光って見える！？不思議体験」	(7人)
	(耶馬溪)「オリジナル・マグネットをつくろう！」	(7人)
	(山国)「牛乳パックを使った工作教室」	(16人)

○子どもの読書週間イベント

年 度	実施内容
令和元年度	(小幡)▽読書案内本・童話・昔話等の絵本展示▽絵本の福袋▽としょかん読書すごろく▽図書館だより拡大号作成▽除籍本(児童書)の無料配布 (三光)▽しおりプレゼント▽おりがみをプレゼント▽除籍本・雑誌の無料配布 (耶馬溪)▽春のおはなし会▽本の展示▽しおりのプレゼント (山国)▽しおり作り体験▽除籍本・雑誌の無料配布
令和2年度	(小幡)▽めざせ！図書館メダリスト▽みんなで魚を泳がせよう♪▽おたのしみ袋 (三光)▽しおりプレゼント▽おりがみをプレゼント▽除籍本・雑誌の無料配布 (耶馬溪)▽しかけ絵本や大型絵本の展示▽しおり、かいけつゾロリのはがきなどプレゼント▽除籍本・雑誌の無料配布 (山国)▽しおりのプレゼント
令和3年度	(小幡)▽ほんたろう▽みんなで木に花をさかせよう！▽絵本のおたのしみ袋 (三光)▽しおりプレゼント▽オリジナルメモ帳プレゼント▽除籍本・雑誌の無料配布 (本耶馬溪)▽クイズ王をめざせ！▽おしりたんていをさがせ！▽しおり・かみおはなプレゼント▽除籍本・雑誌の無料配布 (耶馬溪)▽大型絵本の展示▽しおりのプレゼント (山国)▽除籍本・雑誌の無料配布
令和4年度	(小幡)▽春のおたのしみおはなし会▽絵本のおたのしみ袋▽みんなで花を咲かせよう！▽月に帰るのをとめよう！「としょ姫」▽除籍本・雑誌の無料配布 (三光)▽しおりの配布▽読書週刊スタンプラリー▽除籍雑誌の無料配布 (本耶馬溪)▽“挑戦状！タイトル五十音コンプリート！”▽どんなほんかな？そうぞうしてみよう☆▽「チャレンジ！読書日記」プレゼント▽しおりプレゼント▽除籍本・雑誌の無料配布 (耶馬溪)▽パネルシアター・エプロンシアターの展示▽絵本であそぼ▽除籍本の無料配布 (山国)▽みんなで花(ネモフィラ)を咲かせよう▽おすすめ本の紹介▽しおりの配布▽除籍本・雑誌の無料配布

② おはなし会の充実

◎幼児向け「おはなし会」及び「赤ちゃんおはなし会」などの充実

幼児向け「おはなし会」、「赤ちゃんおはなし会」、春・秋の読書週間の「おたのしみおはなし会」、出張「おはなし会」を行い、小さいころから子どもが本に興味を持ち、図書館に親しむ機会を提供しました。

成 果

- ・取組指標(幼児向け「おはなし会」を毎週1回、「赤ちゃんおはなし会」を月1回)を概ね達成することができました。また、春・秋の読書週間の「おたのしみおはなし会」も、年2回開催しました。
- ・利便性向上のための取組として、それまで電話と窓口だけの受付であった申請に電子申請も加えることで、開館時間に限らず予約ができるようになりました。

課 題

- ・乳幼児の保護者を対象としたアンケート(資料—子どもの読書に関するアンケート結果より)で「おはなし会」に参加したことがない理由として多かった「時間が合わない」と回答した方から、土、日の開催であれば参加が可能とのご意見があったため、日曜日の「おはなし会」の開催を目指します。

【参 考】

○おはなし会実施状況

令和元年度	31回(921人)
令和2年度	26回(248人)
令和3年度	28回(243人)
令和4年度	36回(229人)

※新型コロナウイルス感染予防対策のため、令和2年度以降、組数制限を実施

○赤ちゃんおはなし会 参加人数

令和元年度	307人(153組)
令和2年度	127人(63組)
令和3年度	155人(78組)※8、2月は新型コロナウイルス感染予防対策のため中止
令和4年度	104人(63組)※7～9月は新型コロナウイルス感染予防対策のため中止

※新型コロナウイルス感染予防対策のため、令和2年度以降、組数制限を実施

③ 読み聞かせボランティアの活動連携

(1) ボランティア団体(個人)の活動応援

読み聞かせボランティア団体、個人に活動の場を提供し、活動の応援・支援を行いました。

(2) ボランティア人数の増加

読み聞かせボランティアの募集を随時行い、人数の増加による活動の強化と広がりを目指しました。

成 果

(1) 研修会、情報交換会への参加や意見交換会を行い、連携の強化を図ることができました。

読み聞かせボランティアと協議をし、新型コロナウイルス感染予防対策をとることによって休止していた読み聞かせボランティアによる読み聞かせを再開することができました。

また、読み聞かせボランティアとSNSを利用した連絡体制を整えることで、スムーズな連携を図ることができました。

(2) 新型コロナウイルス感染予防対策のため、読み聞かせボランティアによる読み聞かせを休止した影響からか、再開時に読み聞かせボランティアの登録人数が一時的に減少しましたが、活動再開を機に市報等で募集を行ったところ、新規の読み聞かせボランティアの登録の申込みがあり登録者数が増加しました。

課 題

(1) 読み聞かせボランティアを対象としたアンケート(資料—子どもの読書に関するアンケート結果より)から、図書館主催の研修会へ参加を希望される方が多かったため、読み聞かせボランティアのスキルアップにつながる研修会を積極的に行います。

(2) 読み聞かせボランティアの数が減少傾向にあり、アンケート(資料—子どもの読書に関するアンケート結果より)からも、新会員を望む声が多く、新しい人材の確保、育成、支援が必要です。

【参考】

○市内読み聞かせボランティアグループの状況 (令和5年10月1日現在)

番号	団体名	会員数	読み聞かせ実施校
1	読み聞かせ くすのき	9	南部小
2	おはなしのとびら	7	北部小
3	読み聞かせ ぴこ	15	豊田小
4	沖代小学校よみきかせ オルゴール	14	沖代小
5	読み聞かせグループ クレヨン	15	小楠小
6	読み聞かせグループ 胡桃	10	鶴居小
7	エルマーお話し会	11	大幡小
8	今津小 PTA 母親・研修部	6	今津小
9	ピーターパン	9	和田小
10	おはなしサークル MOMO	11	如水小
11	絵本大すきサークル「どんぐり」	8	樋田小、上津小
12	読み聞かせグループゆめくらぶ	2団体	
13	読み聞かせグループポケット	4	
14	そらいろのたね	5	城井小、津民小、下郷小、耶馬溪中
15	なかつおはなしネットワーク	17 団体	

■中津市教育振興基本計画 抜粋

図書館: 具体的な取組及び指標

具体的な取組及び指標	基準値	現 状	目 標
	2018年度	2022年度	2026 年度
ボランティア数 (読み聞かせ、お話し会等)	65 人	64 人	80 人

※基準値(2018 年度)については、2017(平成 29)年度実績

④ 家庭教育学級における学習の充実

◇子どもと保護者と絵本をつなぐ学習

- ・就学前の子どもを育てている保護者を対象として、「家庭教育学級」を公民館で年間通して開催し、その講座の中で、絵本の読み聞かせや紙芝居などを行い、幼児期における絵本の大切さを保護者に伝えることができました。
- ・講座学習の中に、絵本を身近に感じてもらう講座を企画することにより、子どもと保護者は絵本を通して家庭の中でより繋がり、充実した家庭教育の機会を得ることができました。

成果

- ・コロナ禍での開催の際は、参加者が少ない講座もありましたが、講座学習の中で、幼児期における絵本の大切さを学ぶことで、絵本を活用した家庭教育への道筋をつくることができました。
- ・音楽の生演奏と絵本の読み聞かせのコラボレーションは、参加者に大変好評でした。
- ・各家庭での子育ての中に、読み聞かせが浸透しました。

課題

- ・参加者を増やすため、周知方法の工夫が必要です。
- ・バラエティに富んだ講座を企画するため、講師等についての情報収集を行います。

⑤ 地域子育て支援拠点等における子ども読書活動の推進

(1)子どもの読書活動推進に関する行事の実施

拠点である地域子育て支援センターにおいて、読み聞かせや紙芝居などの行事を行い、子どもの読書活動の推進に努めました。

(2)絵本コーナーの充実

地域子育て支援センターを利用する親子にとって、絵本との出会いの場となり、親しみやすくなるように、乳幼児用の絵本の整備を行い、絵本コーナーの充実に努めました。

(3)保護者への周知

子育て情報誌やフリーペーパーで読書活動の紹介を行い、保護者に読書活動の周知をしました。

成果

- (1)大型絵本や時季にあった絵本の読み聞かせ、紙芝居を月に1度実施しました。他にも、「おはなし会」や「パネルシアター(*)」、「ペープサート(紙人形劇)」などのイベントも開催しました。
- (2)年齢に応じたおすすめ絵本の購入や中津自動車学校からの寄贈図書の配布など、なかつこどもいきいきプレイルームでは約60冊増加することができました。(令和元年度 240冊⇒令和4年度 300冊)。本の案内文(ポップ)をつけたり、絵本のディスプレイの工夫(年齢別・分類別に分ける)をしたりすることで、利用者が本に親しみやすくなりました。
- (3)子育て情報誌「ぼこあぼこ」やフリーペーパー「K+」で、拠点や図書館における読書活動の行事や読書週間の紹介記事を掲載することにより、開催行事を把握し、参加する親子が増えました。

*パネルシアター … パネル布を貼った板の上で物語を展開する出し物のことです。



【 K+の掲載記事 】



【 本のディスプレイの工夫 】

課題

- (1)引き続き、利用者が読書に親しめるようなイベントを拠点と連携し、行うことが必要です。
また、同時に保護者へ小さいころからの絵本の読み聞かせの大切さを伝えていくことも重要です。
- (2)人気の高い絵本を購入するために、利用者のニーズを聞き取ることが必要です。方法として、アンケートを取ったり、行事の際に今読んでいる本の紹介をし合ったりすることが考えられます。本の紹介の方法として、「面陳列」などの工夫をする必要があります。
- (3)継続的に広報していけるように、各拠点と連携し、月行事の情報交換をかかさずに行います。拠点自身が発行している行事予定の中でも、おすすめの絵本を紹介してもらいます。また、スマホ等から検索しやすいデジタルカレンダーでも行事を掲載し、多くの人目につくようにします。

(3) 幼稚園、保育所(園)、認定こども園における子ども読書活動の推進

① ボランティア団体等とのネットワーク構築

◇子どもが図書にふれる環境の推進

幼稚園、保育所(園)からの要望を受け、読み聞かせボランティアを紹介しました。

成果

地域の読み聞かせボランティアと施設が連携することで、読み聞かせ活動だけでなく子どもと地域との交流の役割を果たすことができました。また、施設が読み聞かせを行うにあたり経験豊かなボランティアの意見を伺い、より子どもが本に親しみやすい環境を作ることもできました。

読み聞かせボランティアの利用率の推移(令和元年～令和4年、市内35施設)

令和元年:9% → 令和2年:9% → 令和3年:3% → 令和4年:3%

課題

日常の読み聞かせを保育園の先生が行う状況に、コロナ禍で外部との交流が難しくなったことが利用率の低水準を形成したものと考えられます。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで交流のしやすさは改善傾向にありますが、読み聞かせボランティアを施設が「いつ・どのような」場面で利用するのは今後も検討が必要です。

② 読み聞かせ絵本環境の整備・充実に関する研修会の実施

◎読み聞かせ絵本の充実・研修会の実施

施設ごとの取組として、子どもたちが本に親しみを持てるよう、読み聞かせやエプロンシアター(*)などを実施しました。

*エプロンシアター … 胸当て式のエプロンを舞台に見立て、ポケットから次々と人形を取り出し、エプロンにつけたり、はずしたり、ポケットに戻したりしながらお話をすすめるものです。

成果

施設ごとの取組では、読み聞かせやエプロンシアターを実施し、園児が本に親しみを持てるような取り組みを行いました。研修会はコロナ禍の影響もあり、開催できませんでした。

課題

施設単位では日々読み聞かせを行い、本に慣れ親しむ環境づくりができています。

今後は、図書館からの情報発信を保育施設に共有することや、研修会の実施等を通じて利用促進を図ることが課題となります。

(4) 小・中学校における子ども読書活動の推進

① 小・中学校における子ども読書活動の推進

(1)朝読書の推進

朝読書の必要性について理解を求め、朝読書の推進を行いました。

(2)学校図書館活用授業の推進

学校司書との連携を進め、小、中学校ともに学校図書館を活用した授業を実施しました。

成 果

(1)小学校・中学校ともほぼ取組指標(小学校100% 中学校80%以上の実施)を達成しています。朝読書で落ち着いた一日のスタートを切れている学校が多かったです。

(2)教科にもよりますが、おおむね取組指標(月1回以上 小学校80%、中学校30%以上の実施)を達成しています。特に、国語や社会の学習で図書館活用授業が進んでいます。図書館司書研究協議会において、資料研究を行い、学年・教科・単元で活用できる資料の一覧を作成しました。

課 題

(1)朝の時間を基礎基本の学力を定着させる時間として活用している学校も多く、朝読書の回数自体は全体として減少傾向です。

(2)学校図書館司書と教員との連携や情報共有が不十分な学校もあるため、協議会で作成した資料等について、市教育委員会が各学校へ確実に周知を図る必要があります。

② 障がいのある子どもの読書活動の推進

◇特別支援学級に所属する児童・生徒のニーズにあった図書の整備促進

教育活動の中で、一人ひとりにあった豊かな読書活動が体験できるよう、学校、家庭、地域、関係機関等との連携を図りました。

成 果

・学校図書館司書が特別支援学級担任と情報共有しながら児童生徒の実態に合った図書の整備を進めています。

課 題

・支援が必要な児童生徒のニーズを十分把握することができているか確認する必要があります。

・支援が必要な児童生徒の増加に伴い、まだ整備が不十分なところもあります。大型絵本、紙芝居等は価格が高いため、費用面でも厳しい現状があります。

③ 家庭・地域との連携による読書活動の推進

(1)図書館支援員の配置の維持

社会教育課と連携し、学校支援ボランティアの制度を利用した図書館支援員の配置の維持に努めました。

(2)ボランティアとの情報共有による連携強化

PTAや読み聞かせグループなどのボランティアとの情報共有による連携強化を行いました。

成 果

- (1)学校司書が兼務する学校1校に、図書館支援員を配置することができています。
- (2)PTAや読み聞かせグループの方による放送やZoomを使った読み聞かせ等の工夫が見られました。

課 題

・新型コロナウイルス感染予防の面からこの3年ほどは情報交換する場が限られており、以前の状況に戻す必要があります。

④ 学校図書館活用教育の推進

◇学校図書館活用教育の推進

学校図書館としての機能の充実、学校図書館の効果的な運営等を行いました。

成 果

・学校図書館司書研究協議会を月1回の頻度で実施できており、各学校の情報交換、情報共有やグループでの研究が進みました。

課 題

・研究協議会の内容や取組を各学校に周知することで、さらに司書と教員の連携を図っていく必要があります。

(5) 図書館における子ども読書活動の推進

① 学校と図書館との関係の強化

(1) 学校と図書館の情報交換による連携強化

学校と図書館の連携強化を図るため交流の場を設け情報交換や資料の提供を行いました。

(2) ヤングアダルトコーナーの充実

- ・小学校高学年、中学生、高校生の読書への興味や読みたい本に対応するため、ヤングアダルトコーナーの本を増やして充実させるほか、リクエストなどにも柔軟に対応しました。
- ・英語多読の目的も兼ね英語版のコミックスの蔵書を拡充しました。

成 果

- (1) 司書会への参加、連絡調整会議を毎年1回以上行い、連携を深めることができました。
学校図書館だより、YA(ヤングアダルト)向け図書館だよりを作成し、小・中・高の学校図書館に配布し、図書館の情報等を広報できました。
- (2) 小学校高学年、中学生、高校生を対象としたアンケートを実施することで、ヤングアダルト世代のニーズを知ることができました。

課 題

- (1) 学校図書館司書との交流の機会が少ないため、コミュニケーションをとれる場を積極的に増やす必要があります。
- (2) アンケート結果(資料—子どもの読書に関するアンケート結果より)から小学校高学年、中学生、高校生の興味を引く図書が少ないため、魅力ある蔵書の構築を更に進めていく必要があります。

【参 考】

○児童書の分類別貸出冊数 (※対象:0～18歳)

(単位:冊)

区 分		貸出冊数			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
総 記	百科事典、論文集等	726	530	693	714
哲 学	心理学、道徳学	2,963	2,069	2,551	2,478
歴 史	歴史、伝記、地理学	4,612	3,995	4,965	4,424
社会科学	社会科学、経済、風俗学	2,465	2,188	2,807	3,043
自然科学	地球、宇宙、動植物、医学等	9,551	7,587	10,500	10,131
技 術	技術、機械、電気、製造等	4,671	3,452	4,438	4,230
産 業	農林水産業、商業、運輸等	1,378	852	1,164	1,333
芸 術	絵画、工芸、スポーツ、娯楽等	8,558	7,123	8,876	8,359
言 語	日本語、英語等	1,055	727	911	825
文 学	文学	34,154	23,986	28,594	25,627
絵 本		47,506	41,466	54,298	50,962
紙芝居		2,470	1,669	2,084	1,860
貸出総合計		120,109	95,644	121,881	113,986

② 子どもの図書館カードの普及

◇図書館カードの普及促進

未就学児の登録向上のため、子育て支援課、地域医療対策課などと連携をとり、保護者あてに図書館カード作成案内を行いカードの作成の周知を図りました。また、小学校入学時に学校を通じて図書館カードの作成案内を行い、新1年生のカード作成に繋がりました。

また、ロゴフォームによるカード申請を開始し、新規登録者の利便性の向上に努めました。

成果

- ・地域医療対策課と連携し、赤ちゃんと絵本事業での図書館利用案内、図書館カード申請書配布を行うことで図書館カードの作成について周知することができました。
- ・子育て支援課と連携し、子育て支援センター等で図書館カード作成の周知と普及を図ることができました。
- ・小学校入学時に学校を通じて図書館カードの作成案内を行い、新一年生のカード登録に繋げることができました。

課題

- ・未就学児が読む本は保護者のカードで借りることができるため、カード作成に至らないケースがあります。取組指標(未就学児の図書館カード登録率10%以上)を達成するため、本人カードの利用のメリットなどを広報し、カード作成につなげる必要があります。
- ・毎年市内小学校の全新年生あてに図書館カードの作成の案内を出していますが、諸事情でカード作成をしない学校もあり、全学校からの回収ができていません。

【参考】

○人口別図書館カード登録者数及び利用者数(令和5年3月31日現在) (単位:人,%)

区分	人口①	図書館カード登録者数② ()内は登録率 ②/①×100	左のうち 図書館カード 利用者数③	人口に対する カード利用率 ③/①×100
0歳～6歳	4,445	449(10.1)	298	6.7
7歳～12歳	4,611	4,144(89.9)	1,838	39.9
13歳～15歳	2,365	2,302(97.3)	295	12.5
16歳～18歳	2,271	2,406(105.9)	208	9.2
合計	13,692	9,301(67.9)	2,639	19.3

※図書館カード登録者数は、紛失による二重登録や転出等により登録抹消がされていない場合があるため実数ではありません。

③ 子ども読書活動に対する支援

◇「図書館おすすめ本リスト」・「えほんリスト」の内容充実

- ・「図書館おすすめ本リスト」の改訂版作成を令和3年度に、「えほんリスト」の改訂版作成を令和4年度に行いました。図書館内や学校図書館に設置し、図書館おすすめ本リストの利用拡大に努めました。
- ・読み聞かせのためのおすすめ本を調べてリストにし、ボランティア団体等に提供することで、連携・協力を行いました。

成 果

- ・図書館内で配布を行っていますが、掲載図書の問い合わせや利用も多くあり、読書の推進に繋ぐことができました。
- ・各リストを作成し配布することで、読み聞かせ等の選書に悩む保護者の読書支援を行うことができました。

課 題

- ・今後もリスト更新に向けて掲載図書の利用状況や良書の情報収集を行います。
- ・おすすめ本リスト掲載図書のコーナーの周知を行うことが必要です。

④ 図書館職場体験の紹介

◇「一日図書館司書体験」・「職場学習」の啓発

- ・夏休みに小学生の「一日図書館司書体験」を実施し、図書館業務を体験してもらいました。
- ・中学生の「職場体験」などを積極的に受入れ、図書館の働きや資料の利用方法を体得してもらいました。
- ・小・中学校だけでなく、希望があれば高等学校のインターンシップも受け入れており、大分県立中津支援学校高等部生徒の現場実習を行いました。
- ・ホームページなどで職場体験等の紹介を行いました。

成 果

- ・小学生の「一日図書館司書体験」や中学生の「職場体験」を通して、図書館や読書への興味を深めることができました。
- ・高等学校のインターンシップや大分県立中津支援学校高等部生徒の現場実習を受け入れることで、利用が少ないヤングアダルト世代への広報ができました。
- ・館内に小学生からの感想等を掲示し、来館のきっかけづくりや利用者の興味をひくことができました。

課 題

小中学生を対象としたアンケート(資料—子どもの読書に関するアンケート結果より)の結果から、「一日図書館司書体験」に参加したいと思っている児童・生徒が多い反面、「一日図書館司書体験」について知らなかったとの回答も多く、また、参加希望者のいない学校もあるため、周知のための工夫が必要と考えます。

【参 考】

■小学生の「一日図書館司書体験」参加率 (単位:人, 校, %)

	参加人数	募集学校数	参加学校数	学校参加率
令和元年度	30	21	16	76.2
令和3年度	22	11	11	100
令和4年度	26	21	15	71.4

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染予防対策のため未実施。

令和3年度は本館のみ規模を縮小して実施。(時間を短縮して実施)

■職場体験実施中学校

令和元年度 (小幡) 6校 11人(城北中 2人 豊陽中 2人 中津中 1人 東中津中 2人
今津中 2人 吉富中 2人)
(耶馬溪) 1校 1人(耶馬溪中 1人)

令和2年度 学校からの申し入れなし

令和3年度 学校からの申し入れなし

令和4年度 5校 9人(城北中2人 東中津中1人 本耶馬溪中2人 耶馬溪中2人、山国中2人)

■現場実習実施高等学校

令和4年度 1校 1人(大分県立中津支援学校)

⑤ 除籍図書の再利用

◇除籍図書の学校や幼稚園、保育所(園)での再利用推進

図書館では購入後10年を経過した書籍については、基本的に閉架書庫に保管しており、そのうち約2万冊が児童書です。汚損や破損など傷みの激しいものは廃棄処分しますが、それ以外の多くの本が再利用できるものであるため、子どもが関わっている施設での児童用除籍図書の再利用を促進しました。

- ・学校司書を通じて学校図書館へ譲渡を行いました。
- ・幼稚園・保育所(園)、放課後児童クラブ、読み聞かせサークル、個人ボランティア等の関係機関と連携をとり、ニーズの把握等を行い、再利用の促進をしました。
- ・春と秋の読書期間中に絵本・児童書の無料配布を行いました。

成 果

司書を通じて、学校図書館への譲渡は平均約800冊/年行われました。また子どもが関わっている施設、読み聞かせサークルにも声掛けし再利用することができました。

課 題

傷んではないが需要の少ない本、また資料の数値も変わり調べ学習に相応しくない本もあるため、取組指標(除籍資料の再利用100%)を実現するのは難しい状況にあります。

【参 考】

○閉架書庫の児童書及び児童書活用資料(除籍資料)冊数 (単位:人,冊)

年 度	閉架書庫の児童書数	児童書活用資料(除籍資料)冊数
令和元年度	23,417	1,311
令和2年度	22,368	1,788
令和3年度	22,812	848
令和4年度	22,433	1,159

基本施策Ⅱ 施設の充実

(1) 市立図書館の充実

① 図書資料、視聴覚資料の充実

◇資料の充実

- ・既存の蔵書に加え、調べ学習に対応できる資料の充実を図りました。
- ・図書館に親しむことができるような児童向けの視聴覚資料を購入し、整備・提供しました。

成果

- ・学校図書館司書やボランティアと連携し、調べ学習や読み聞かせ資料の充実を図ることができました。
- ・毎月計画的に新規の視聴覚資料を購入し、提供することができました。

課題

- ・資料紹介や展示を工夫し、利用者の興味を引く情報を発信する必要があります。
- ・利用が多く劣化のある視聴覚資料の再購入についての検討が必要です。
- ・アンケート結果(資料—子どもの読書に関するアンケート結果より)から小学校高学年、中学生、高校生の興味を引く図書が少ないため、魅力ある蔵書の構築を更に進めていく必要があります。

【参考】

○図書館資料費の推移

(単位:千円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
図書	23,227,857	22,654,948	19,000,489	19,921,159
新聞・雑誌	3,274,567	3,421,358	3,154,370	3,206,581
視聴覚資料	2,272,142	2,844,517	1,499,012	1,735,794
合計	28,774,566	28,920,823	23,653,871	24,863,534

○蔵書数(令和5年3月31日現在)

(単位:冊)

	一般書	児童書	古文書	雑誌	視聴覚資料	合計
本館	135,086	53,333	2,233	1,909	6,201	198,762
本館移動図書館車	6,614	5,897	0	0	0	12,511
三光図書館	13,244	11,657	0	293	337	25,531
本耶馬溪図書館	8,333	8,838	0	278	356	17,805
耶馬溪図書館	21,690	16,160	0	208	369	38,427
山国図書館	35,105	20,454	0	301	1,445	57,305
全館	220,072	116,339	2,233	2,989	8,708	350,341

○貸出数及び受入数 (単位:冊)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
児童書貸出数	214,052	157,393	214,190	202,991
児童書購入数	4,936	4,463	3,556	3,543

○上映会実施状況 (単位:回,人)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
回数	30	31	38	44
鑑賞者数	383	197	233	388

○児童書の分類別蔵書数 (単位:冊)

		蔵書数			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
総記	百科事典、論文集等	962	990	1,064	1,045
哲学	心理学、道徳等	1,243	1,335	1,379	1,379
歴史	歴史、伝記、地理等	4,349	4,517	4,570	4,416
社会科学	社会科学、経済、風俗等	3,409	3,563	3,638	3,528
自然科学	地球、宇宙、動植物、医学等	7,206	7,492	7,687	7,620
技術	技術、機械、電気、製造等	3,020	3,072	3,143	3,101
産業	農林水産業、商業、運輸等	1,812	1,819	1,873	1,847
芸術	絵画、工芸、スポーツ、娯楽等	4,943	5,050	5,087	5,023
言語	日本語、英語等	1,274	1,297	1,313	1,290
文学	文学	33,711	33,143	32,435	31,757
絵本		53,247	53,337	52,979	52,954
紙芝居		2,412	2,393	2,361	2,379
合計		117,588	118,008	117,529	116,339

- 小幡記念図書館で所蔵している児童の参考資料(一部)
- ・「なかつ学びんびっく」(中津市教育委員会)
- ・「調べる学習百科」(岩崎書店)
- ・「調べる学習子ども年鑑」(岩崎書店)
- ・「朝日ジュニア学習年間」(朝日新聞出版)
- ・「小学生の考える力を伸ばす『国算社理』の1000冊」(小学館)
- ・「小学館こども大百科 キッズペディア」(小学館)
- ・「きっずジャポニカ」(小学館国語辞典編集部 編集／小学館)
- ・「総合百科事典ポプラディア」(ポプラ社)
- ・「玉川児童百科大辞典」(小原哲郎 編集総括／誠文堂新光社)
- ・「おおいたの調べ学習ガイド」(大分県立図書館)
- ・「調べ学習の基礎の基礎」(赤木かん子 著／ポプラ社)
- ・「本で調べてほうこくしよう」(赤木かん子 著／ポプラ社)
- ・「クックとタマ次郎の情報大航海術 図書館からはじめる総合学習・調べ学習」
(片岡則夫 作／リブリオ出版)
- ・「学校では教えない博物館科学館からはじめる『調べ学習』のヒント100」
(講談社 編／講談社)

(2) 学校図書館の充実

① 図書資料の充実

◇学校図書館図書標準に則った環境整備の促進

子どもの興味・関心にこたえられるような図書資料の充実

成果

・学校図書館図書標準を意識した図書の購入と廃棄ができてきており、中学校だけではありませんが取組指標(学校図書館図書標準の満たしている学校の割合が、小学校100%、中学校70%以上)を達成している年が5年中2回ありました。

課題

- ・廃棄基準に基づいて廃棄をすると、学校図書館図書標準を満たすことができない学校があるという現状があります。廃棄せずに残せば、学校図書館図書標準の冊数を満たしますが、読まないのであればあまり意味がありません。
- ・学校図書館図書標準の冊数を図書館内に置くスペースがない学校もあります。

② 学校図書館のネットワーク化

◇学校図書館と市立図書館や県立図書館のネットワークによる資料収集の充実

- ・学校と市立図書館、学校相互で連携し、各種図書資料などの情報交換を行いました。
- ・学校と県立図書館等との連携により、全ての学校で充実した貸出ができるようになりました。

成果

- ・学校と市立図書館との情報交換は年に1回は実施し、情報共有を行うことができました。
- ・大分県図書館情報ネットワーク(OLIB)には、全ての学校が登録できています。

課題

- ・市立図書館との連携の機会が少なかったため、研修会を持つなどコミュニケーションをとれる場を積極的に増やす必要があります。

③ 学校図書館への人的配置の推進

◇学校図書館司書の維持及び学校図書館支援ボランティアの活用

- ・学校図書館を活用した授業のために、管理職、司書教諭、図書館担当、学校図書館司書等で協議検討する体制づくりを行いました。
- ・学校図書館にある蔵書や資料を活用するため、学校図書館司書等の配置を維持し、公立図書館と連携しスキルアップに努め、人のいる学校図書館を目指すとともに学校相互の連携を図りました。

成果

- ・学校図書館司書25名、学校図書館支援ボランティア1名の配置は維持できました。

課題

- ・年度当初に司書の欠員が生じることが複数年あり、兼務をせざるを得ない状況となったので、今後も人材確保をしていく必要があります。

(3) インターネットの活用

① 子ども用ホームページの推進

◇子ども用ホームページの利用促進・啓発

図書館や読書に親しみのない子どもにも図書館行事や企画に興味を持ってもらえるよう、魅力的でわかりやすい子ども用のホームページの更新を行い、利用促進や啓発を図りました。

成 果

- ・子ども用のホームページのトップページを分かりやすくリニューアルしました。また、コンテンツも新刊、上映会、今月の企画などの情報に加え、おすすめ図書リストも追加して、利用促進や啓発につなげることができました。
- ・小学校向け図書館だよりに子ども用ホームページの案内を掲載し啓発に努めました。

課 題

- ・図書館のホームページ自体の認知度を高める取り組みが必要です。

【参 考】

○インターネット予約冊数

年 度	予約冊数	うち児童書予約冊数
令和 元 年度	15,240	2,594
令和 2 年度	20,542	4,097
令和 3 年度	42,758	8,658
令和 4 年度	21,194	4,019

※インターネット予約 … 図書館ホームページの「検索・予約」画面から資料の検索、予約ができます。

基本施策Ⅲ 連携・協働

(1) 図書館相互の連携・協働

① 県立図書館、市町村立図書館との連携強化

◇他図書館との情報共有による連携強化

他図書館との情報共有による連携強化を図り、大分県の所蔵資料横断検索システム等を通じて相互貸借の推進を行いました。

成果

- ・大分県立図書館及び県内市町村図書館との相互貸借では、100冊以上の児童書を相互に貸借し、子どもへの図書提供を充実させました。
- ・県立図書館職員研修会へ参加し、受講内容を選書の参考にするなど、中津市の子どもの読書活動の推進に活かすことができました。

課題

- ・OLIBの新システムによる相互貸借システムを、十分活用できるように習熟します。

② 市立図書館と学校図書館との連携、貸借や情報交換の強化

◇学校図書館司書との連携及び情報交換強化

- ・学校図書館司書と連携し、図書資料に関する要望や貸出し依頼に応じました。
- ・図書館と学校の図書館司書が相互に図書資料の相談や意見交換をすることで連携の強化を図りました。

成果

- ・司書会への参加や連絡調整会議の開催により、情報交換の強化等ができました。
- ・学校図書館司書の要望を踏まえた除籍図書の無償譲渡を実施できました。

課題

- ・合同研修会等、積極的な交流会の実施
- ・学校図書館が必要とする図書の把握に努め、図書館を積極的に活用してもらうための工夫や体制を整えます。

【参考】

○連携の体系図

小幡記念 図書館		旧市内	小学校	11校
			中学校	6校
三光 図書館		三光 地区	小学校	4校
			中学校	1校
本耶馬溪 図書館		本耶馬溪 地区	小学校	2校
			中学校	1校
耶馬溪 図書館		耶馬溪 地区	小学校	4校
			中学校	1校
山国 図書館		山国 地区	小学校	1校
			中学校	1校

(2) 図書館と関係機関(団体)との連携・協働

① 市立図書館と関係機関(団体)との連携・協働

◇市立図書館と関係機関(団体)との連携・協働、関係機関との定期的な情報交換

子ども読書活動を円滑に推進していくために、幼稚園、保育所(園)、小中学校、家庭、地域などと連携を密にして、関係機関(図書館協議会等)と定期的に情報交換を行う中で、子どもの読書活動の推進を行いました。

読み聞かせボランティアや保護者、学生を対象にアンケートを行い、現状の把握や課題について確認を行いました。

成果

- ・定期的に図書館協議会を開催し、委員からの意見、要望を受け、関係機関と連携し、利用者サービスに繋げることができました。
- ・ボランティアや保護者、学生を対象としたアンケート(資料—子どもの読書に関するアンケート結果より)の結果、特に学生から要望が多かった、飲食コーナーやWiFiの設置を行い、環境を整えることで利用の促進を図りました。
- ・読み聞かせボランティアとの情報交換のツールとしてSNSを用いるなど、ボランティアが参加しやすい環境の整備を行いました。

課題

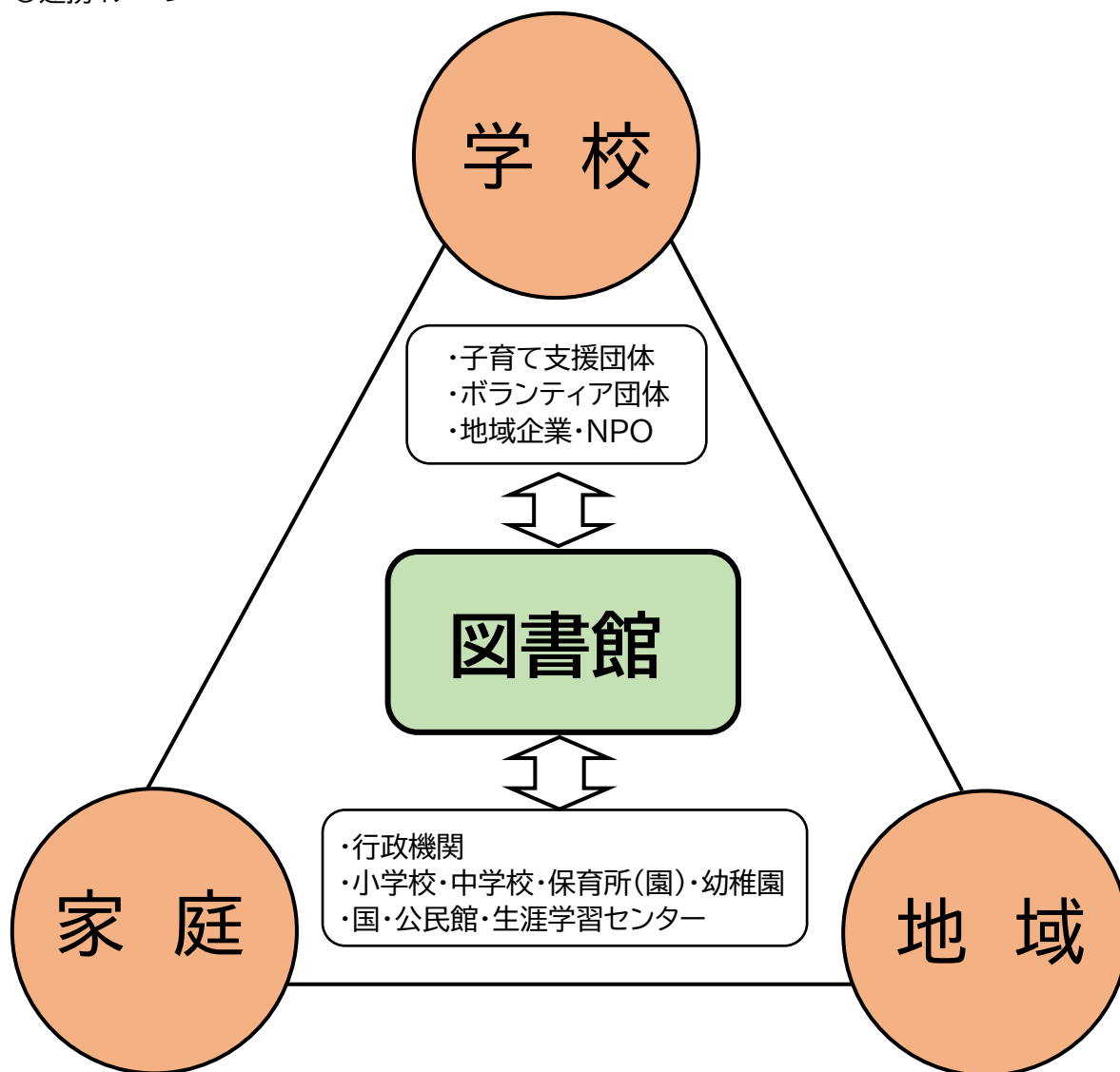
- ・ボランティアの数が減少傾向にあるため、新しい人材の確保が必要です。
- ・今後も各団体との積極的な交流を行い、子どもが読書に興味を持つようなサービスの向上につなげる必要があります。

【参考】

○市の関係課が所管する子ども読書活動に関わる団体・個人

社会教育課	読み聞かせグループ、保護者、託児者
学校教育課	学校図書館司書、教職員、読み聞かせグループ
子育て支援課	保育士、読み聞かせグループ
図書館	図書館司書、読み聞かせグループ、ボランティア

○連携イメージ



○図書館協議会委員の構成

1. 校長会の代表者
2. PTA関係の代表者
3. 幼稚園関係の代表者
4. 保育園関係の代表者
5. 社会教育委員
6. 公民館運営審議会委員
7. 読み聞かせボランティア
8. 三光・本耶馬溪・耶馬溪・山国地区から各1名
9. 学識経験者

第3章 具体的方策

◆第3次中津市子ども読書活動推進実施計画取組方針一覧表

目標	施策名	取組項目	担当課	項目番号	取組の方針				
読書を通じて、学びはじめ、学び合い、学びつづける子どもの育成	中津市子ども読書活動推進実施計画 ～学びの里読書プラン～	中津市全体における読書活動の推進	基本施策Ⅰ	(1)	家庭における子ども読書活動の推進	図書館	I-(1)-①	乳幼児の読書活動の推進	
						社会教育課	I-(1)-②	なかつ学びんびつくによる読書活動の推進	
			(2)	地域における子ども読書活動の推進	図書館	I-(2)-①	図書を利用した行事の推進		
					図書館	I-(2)-②	おはなし会の充実		
					図書館	I-(2)-③	読み聞かせボランティアの活動連携		
					社会教育課	I-(2)-④	家庭教育学級における学習の充実		
					子育て支援課	I-(2)-⑤	地域子育て支援拠点等における子どもの読書活動の推進		
			(3)	幼稚園、保育所(園)、認定こども園における子ども読書活動の推進	子育て支援課	I-(3)-①	ボランティア団体等とのネットワーク構築		
					子育て支援課	I-(3)-②	読み聞かせや絵本環境の整備・充実の促進		
			(4)	小・中学校における子ども読書活動の推進	学校教育課	I-(4)-①	小・中学校における子ども読書活動の推進		
					学校教育課	I-(4)-②	多様な子どもたちの読書機会の確保		
					学校教育課	I-(4)-③	家庭・地域との連携による読書活動の推進		
					学校教育課	I-(4)-④	学校図書館活用教育の推進		
			(5)	図書館における子ども読書活動の推進	図書館	I-(5)-①	学校と図書館との関係の強化		
					図書館	I-(5)-②	子どもの図書館カードの普及		
					図書館	I-(5)-③	こどもの読書活動に対する支援		
					図書館	I-(5)-④	図書館職場体験の紹介		
					図書館	I-(5)-⑤	除籍図書の再利用		
			基本施策Ⅱ	施設の充実	(1)	市立図書館の充実	図書館	Ⅱ-(1)-①	図書資料、視聴覚資料の充実
					(2)	学校図書館の充実	学校教育課	Ⅱ-(2)-①	図書資料の充実
	学校教育課	Ⅱ-(2)-②					学校図書館と市立・県立図書館のネットワークの充実		
	(3)	デジタル社会に対応した読書環境の整備	図書館	Ⅱ-(3)-①	図書館のDXの推進				
			学校教育課	Ⅱ-(3)-②	タブレット端末を活用した読書・学習環境の整備				
	基本施策Ⅲ	連携・協働	(1)	図書館相互の連携・協働	図書館	Ⅲ-(1)-①	県立図書館、市町村立図書館との連携の強化		
					図書館	Ⅲ-(1)-②	市立図書館と学校図書館との連携、貸借や情報交換の強化		
			(2)	図書館と関係機関(団体)との連携・協働	図書館	Ⅲ-(2)-①	市立図書館と関係機関(団体)との連携・協働		

基本施策Ⅰ 中津市全体における子ども読書活動の推進

(1) 家庭における子ども読書活動の推進

子どもの読書習慣は日常の生活を通して形成されるものであり、子どもたちの生活の基盤である家庭は、とても重要な役割を担っています。子どもたちが本に出会い、家族のコミュニケーションを深めていくことは、大きな意味があります。家庭で乳幼児への読み聞かせを行う保護者や読み聞かせボランティアと連携し、地域ぐるみで読書活動を推進する体制や施策を構築することで、子どもの本への関心を高め、読書を楽しいものとして習慣づけていきます。

また、自分たちが暮らす中津の良さやゆかりの深い偉人について知ることによって、故郷に愛着を持ち、故郷を誇りに思う心を育て、故郷の良さを発信できるグローバルな人材を育成するため、「なかつ学びんぴっく」公式ガイドブックを通して親子でコミュニケーションをとる時間が確保できるよう啓発に努めます。

◆ 第3次計画の具体的な取組と取組方針

① 乳幼児の読書活動の推進

【具体的な取組】

・ 赤ちゃん絵本の読み聞かせ事業

家庭で保護者が読み聞かせ出来るよう、絵本2冊のプレゼントを行います。

あわせて読み聞かせボランティアによる読み聞かせを通じて、読み聞かせや読書の大切さを保護者へ伝え、子どもたちが読書の楽しさを知る事が出来るように働きかけます。

・ あかちゃんタイム

乳幼児連れの保護者の方が気兼ねなく図書館を利用できるようにするため、他の利用者に理解協力を求める「あかちゃんタイム」を継続実施し、ボランティアによる乳幼児の見守りや読み聞かせ等もあわせて行うことで乳幼児の読書活動の推進を図ります。

【取組方針】

- ・「赤ちゃん絵本の読み聞かせ事業」での絵本の受渡し率80%以上を目指します。
- ・「あかちゃんタイム」の利用者拡大のため、周知方法の工夫を行います。



【あかちゃんタイムの様子】



【赤ちゃん絵本の読み聞かせ事業】

② なかつ学びんぴっくによる読書活動の推進

【具体的な取組】

・「なかつ学びんぴっく（子ども中津検定）」公式ガイドブックの配布

中津の子どもたちが、ふるさと中津の自然、歴史、偉人などについて気軽に学ぶことができるように公式ガイドブックを作成し、毎年、新たに小学校3年生になる児童全員に配布します。また、小学校の社会科の副教材として活用します。

・「なかつ学びんぴっく（ジュニア諭吉検定）」公式ガイドブックの配布

中津の子どもたちが、ふるさと中津の偉人「福澤諭吉」について学ぶことができるように公式ガイドブックを作成し、毎年、新たに中学1年生になる生徒全員に配布します。

・検定試験の実施

上記について、学んだ成果を確認するために検定試験を実施し、子どもたちが学んだ成果を自ら確認し、評価できるようにします。

【取組方針】

・「なかつ学びんぴっく（子ども中津検定）」公式ガイドブックの、小学校の社会科の副教材としての活用を促進します。

・「なかつ学びんぴっく（ジュニア諭吉検定）」公式ガイドブックの、中学校の総合的な学習での活用を促進します。



【「なかつ学びんぴっく(子ども中津検定)(ジュニア諭吉検定)」の様子】

(2) 地域における子ども読書活動の推進

図書館では、子どもたちが本に対する興味を持つように、所蔵する本を用いてのイベントや工作教室などを行います。また、読み聞かせボランティアと連携して、読み聞かせの楽しさを伝えることで、家庭での読み聞かせを始めるきっかけづくりとなるように、定期的におはなし会や赤ちゃんおはなし会を開催します。活動をより良いものにするため、読み聞かせボランティアとの意見交換会や研修会等も行います。

公民館では、就学前の子どもを家庭で育てている親を対象とした家庭教育学級を開催します。講座では読み聞かせ等を行い、学んだことを各家庭での子育てに活かしていくことを主眼にした取り組みを行います。

また、児童の健全育成を推進し、子育て中の家庭を支援することを目的とする地域子育て支援施設では、絵本コーナーの設置や時季に応じた読み聞かせを開催するなど、「親子で絵本に触れる機会の提供」を行います。

◆ 第3次計画の具体的な取組と取組方針

① 図書を利用した行事の推進

【具体的な取組】

・夏休み工作遊び教室

図書館に所蔵する本や資料の紹介、読み聞かせ等を行い、工作物を作りながら本の内容や読書の楽しさを学べるような夏休み工作あそび教室を各館で企画し開催します。

・読書週間行事

子どもの読書週間や秋の読書週間には各館でイベントを企画し開催します。

【取組方針】

- ・工作遊び教室や読書週間行事を年に3回以上開催（全館開催）します。

※令和4年度実績 年3回開催（全館開催）



【夏休み工作遊び教室の様子】



【読書週間行事の様子】



② おはなし会の充実

【具体的な取組】

・おはなし会の充実

幼児向け「おはなし会」及び「赤ちゃんおはなし会」を開催します。

春、秋の読書週間をはじめ、定期的に開催しているおはなし会に参加できない人を対象とした「おはなし会」の開催を企画します。

ボランティア増加による「おはなし会」の体制強化を図ります。

【取組方針】

・幼児向け「おはなし会」を週に1回開催します。

・「赤ちゃんおはなし会」を月に1回開催します。



【読書週間「おたのしみおはなし会」の様子】

③ 読み聞かせボランティアの活動連携

【具体的な取組】

・ボランティア団体（個人）の活動の応援

読み聞かせボランティアとの情報交換会を行い、ボランティアからの要望や意見を情報共有し、また、ボランティア団体（個人）が必要とする研修会の企画・開催や、団体独自の研修会の支援も積極的に行います。

・ボランティアの増員

市報等によりボランティアの募集を行います。

【取組方針】

・研修会を年に1回以上実施します。

・情報交換会を年に1回以上実施します。

・市報等による読み聞かせボランティアの募集を年に1回実施します。



【情報交換会の様子】

④ 家庭教育学級における学習の充実

【具体的な取組】

・ 子どもと保護者と絵本をつなぐ学習

家庭教育学級において、絵本の読み聞かせや子どもと絵本をつなぐ機会を充実させる講座を実施します。また、その際に小幡記念図書館や村上記念童心館の紹介を行います。

【取組方針】

- ・ 子どもと保護者に、絵本をより身近な存在に感じてもらうような講座の構築を行います。



【家庭教育学級 読み聞かせ講座の様子】

⑤ 地域子育て支援拠点等における子ども読書活動の推進

【具体的な取組】

・ 子どもの読書活動推進に関する行事の実施

各拠点において、読み聞かせやパネルシアターなどの読書活動に関する行事を行い、親子が本に親しめる時間を提供します。

・ 絵本コーナーの更なる充実

子どもの興味・関心や発達段階に応じた図書コーナーを設け、読書に親しみやすい環境を整備していきます。利用者が目にしやすいように、本の紹介方法として、面陳列などの工夫をします。

・ 読書活動に関する広報

子育て情報紙「ぽこあぽこ」での図書館情報の掲載や各拠点が出す月行事予定でのおすすめの本の紹介などを行い、多くの利用者に周知します。また、スマホ等から検索しやすいデジタルカレンダーにも行事を掲載し、ネットの情報伝達ツールも利用します。

【取組方針】

- ・ 各地域子育て支援拠点での読み聞かせ行事を、概ね月1回開催します。
- ・ なかつ・こどもいきいきプレイルーム内にある「お話の泉」の蔵書数が10%増加するように努めます。



【 拠点の読み聞かせ行事 】



【 面陳列の工夫 】

(3) 幼稚園、保育所（園）、認定こども園における子ども読書活動の推進

幼児教育や保育の中で子どもは、毎日本にふれています。本にふれる遊びや読み聞かせの活動において、本は何かを教え込むしつけの道具ではなく、本にふれることで楽しさを覚えるものです。子どもがもっと興味を持ち、読み聞かせをする側も楽しみ、お互いに楽しさを感じるために読書活動のさらなる工夫が必要です。

◆ 第3次計画の具体的な取組と取組方針

① ボランティア団体等とのネットワーク構築

【具体的な取組】

・子どもが図書にふれる環境の推進

市内教育・保育施設での日常の幼児教育や保育の流れの中で幼稚園教諭・保育士等による読み聞かせが行われていますが、各施設等へ、読み聞かせボランティアの周知を進めるとともに、施設からの要望があるときには読み聞かせボランティアの紹介をします。

【取組方針】

・保育所・認定こども園の読み聞かせボランティアの利用率20%を目指します。

② 読み聞かせや絵本環境の整備・充実の促進

【具体的な取組】

・読み聞かせ絵本の充実

図書館と連携し、図書館内で行われる親子・子ども向けイベントの周知や推薦図書の紹介を行い、子どもや保護者、施設が図書館を利用しやすい環境づくりに取り組みます。

【取組方針】

・図書館と連携の上、図書館内で行われる親子・子ども向けイベントの周知や推薦図書等の紹介等を行います。



【 読み聞かせの様子 】



【 寄贈図書 】

(4) 小・中学校における子ども読書活動の推進

令和元年度まで多くの小・中学校で行われてきた、PTAやボランティア団体による「読み聞かせ」や図書館支援は、令和2年から続いたコロナ禍の下で多くの制限がされてきました。しかし、令和5年5月からのコロナ感染症5類移行に伴って、コロナ禍以前と同様の活動ができるように戻りつつあることから、子どもの読書への意欲を高める活動となっています。さらに学校図書館司書を中心に子どもたちが本に興味を持つように様々なイベント活動も行っています。

また、学校では、児童生徒一人ひとりの興味関心に合わせた読書活動を行っており、読書の楽しさと出会い、読書習慣を身に付けるために、教育活動の中で一人ひとりにあった豊かな読書活動ができるように働きかけを行っています。また、読書が自己の人生を豊かにする活動となるよう、学校、家庭、地域、関係機関等との連携を図っています。

学校図書館の蔵書や資料の活用がなされるためには、専門的な知識を持った学校図書館司書の存在が不可欠であり、公立図書館などとも連携しながら、学校図書館司書のスキルアップを行うとともに、学校図書館としての機能の充実、学校図書館の効率的な運営等を目指します。

◆ 第3次計画の具体的な取組と取組方針

① 小・中学校における子ども読書活動の推進

【具体的な取組】

・ 一斉読書の推進

朝読書など帯の時間を使った一斉読書の充実を図ります。

・ 学校図書館活用授業の推進

学校図書館司書との連携を進め、小・中学校ともに必要に応じた学校図書館を活用した授業を推進します。

【取組方針】

- ・ 一斉読書の実施（週2回以上）を行う学校の割合が、小学校100%、中学校90%以上となるように内容の充実を図ります。
- ・ 学校図書館活用授業を実施（学期に数回以上）する学校の割合が、小学校90%、中学校70%以上になるよう学校司書と連携を図ります。

② 多様な子どもたちの読書機会の確保

【具体的な取組】

- ・ 障がいのある児童生徒、日本語指導を必要とする児童生徒等、多様な子どもたちのニーズにあった読書環境の整備

読書の楽しさとの出会い、読書習慣を身につけるために、教育活動の中で一人ひとりにあった豊かな読書活動が体験できるように働きかけます。また、読書が自己の人生を豊かにする活動となるように、学校、家庭、地域、関係機関等との連携を図ります。

【取組方針】

- ・ 大型絵本、紙芝居、エプロンシアターや音声図書などの図書の充実を促します。
- ・ 多様な背景を持つ子どもへの読書機会の場の提供を行います。

③ 家庭・地域との連携による読書活動の推進

【具体的な取組】

- ・ ボランティアとの情報共有による連携強化
P T Aや読み聞かせグループなどのボランティアと情報共有による連携を強化します。
- ・ 図書館支援員の配置の維持
社会教育課と連携し、学校図書館支援ボランティアの制度を利用した図書館支援員の配置を維持します。

【取組方針】

- ・ P T Aや読み聞かせグループなどのボランティアとの情報交換を年1回以上行います。
- ・ ボランティア等の活用を学期ごとに1回以上行います。
- ・ 学校司書が兼任する小・中学校への図書館支援員の配置を維持します。



【 コロナ禍での読み聞かせの様子 】

④ 学校図書館活用教育の推進

【具体的な取組】

・学校図書館としての機能（「読書センター」※1）「学習・情報センター」※2）の充実

※1 「読書センター」・・・自由に好きな本を選んだり、読んだりするなど、子どもが読書に親しむきっかけを提供する場のこと。

※2 「学習・情報センター」・・・子どもが自ら学ぶ学習を支援したり、学習の成果物を蓄積・展示したりするなど、授業で必要な資料や情報を提供する場のこと。

・学校図書館の効果的な運営

学校図書館の蔵書や資料の活用を進めるために、専門的な知識を持った学校図書館司書を配置し、公立図書館との連携や学校図書館司書の情報共有やスキルアップのための研究協議会を定期的を開催します。

【取組方針】

- ・学校図書館司書研究協議会または研修を年間6回以上実施します。
- ・協議会でまとめた内容については、年に1回以上学校に共有するように努めます。



【 学校図書館司書研究協議会の様子 】

(5) 図書館における子ども読書活動の推進

中津市立図書館は、本館(小幡記念図書館)と分館(三光図書館、本耶馬溪図書館、耶馬溪図書館、山国図書館)の5館体制で、地域の読書拠点としての役割を担っています。学校との連携として、希望する小学校や幼稚園などに資料の貸出や除籍図書の無料配布を行っています。また、児童・生徒向けの図書館だよりの配布、小学校の社会見学や、中学校、高等学校の職場体験の受け入れなどを積極的に行っています。

出生時と就学時には、図書館カードの作成案内を行うとともに、館内の英語の多読コーナーの紹介や、おすすめ本のリストの作成など、数多くの蔵書の中からそれぞれの子どもに合った本を選ぶ際の参考資料の提供を行っています。

読み聞かせボランティアと協力して、赤ちゃん絵本の読み聞かせ事業やおはなし会の開催など、あかちゃんと保護者が絵本を介して心のふれあいを持つきっかけ作りを行っています。図書館は、学校司書や読書ボランティアの支援、研修や講座の開催など、地域の読書活動推進の中核的な施設となっています。

◆ 第3次計画の具体的な取組と取組方針

① 学校と図書館との関係の強化

【具体的な取組】

・学校と図書館の情報交換による連携強化

団体貸出など現在行っている取組の充実を図ります。学校図書館だよりにも新刊本の紹介や特集記事など、より読書や図書館についての興味を引く記事を掲載します。

学校図書館司書は授業等で使用する図書館の蔵書の貸出し依頼や購入依頼、調査相談を取りまとめ、図書館に連絡します。図書館はその内容に応じた対応を行います。

図書館と学校図書館との研修会を開催し、情報交換による連携を強化します。

・ヤングアダルト(中高生向け)コーナーの紹介

ヤングアダルトコーナーを充実させ、児童生徒が興味のある本を増やし、YA(ヤングアダルト)向け図書館だよりなどを通じて、児童、生徒へ紹介し、読みたい本を読める環境を整えます。

【取組方針】

・図書館と学校図書館との研修会を年に2回以上実施します。

・中学校や高等学校あてにYA向け図書館だより(季刊)を送付し、ヤングアダルト向け図書の紹介を行います。



【 図書館と学校図書館との研修会 】

② 子どもの図書館カードの普及

【具体的な取組】

・図書館カードの普及促進

18歳以下のうち、未就学児の登録率が低いため、関係課と連携し、出生時や7か月健診の会場にて図書館カード作成の案内をするとともに、図書館カードの電子申請についてもホームページなどを活用し周知します。

【取組方針】

- ・18歳以下の子どもの図書館カードの登録率90%以上を目指します。
(※図書館カードの登録率：18歳以下の登録者数／18歳以下の人口)

③ 子どもの読書活動に対する支援

【具体的な取組】

・「図書館おすすめ本リスト」・「えほんリスト」の内容充実

図書館司書が作成している「図書館おすすめ本リスト」や「えほんリスト」の内容を更新し、発行します。

推薦図書やおすすめ本のコーナーの利用を促進するために、多くの子どもや保護者に向けて、おすすめ本のパンフレットを作成し、手に取ってもらえるよう工夫した展示を行います。また、学校図書館司書や学級担任、読み聞かせボランティアと連携協力し、おすすめ本のパンフレットを随時学校図書館に設置してもらい、司書や学級担任の読書指導やボランティアの読み聞かせに必要な情報を提供します。

【取組方針】

- ・「図書館おすすめ本リスト」、「えほんリスト」の更新、内容の充実を図ります。
- ・図書館や学校以外でもパンフレットが手に入るように、設置場所や配布場所の工夫を行います。

④ 図書館職場体験の紹介

【具体的な取組】

・「一日図書館司書体験」・「職場体験」の啓発

職場体験により子どもと図書館とのつながりを深めるため、学校に図書館での仕事内容の紹介や子どもが書いた職場体験の感想などを図書館だよりなどに掲載し周知を図ります。

【取組方針】

- ・仕事の内容等具体的にわかるものを作成して、各小学校あてに配布して、児童に参加を促します。
- ・中学校の職場体験受け入れを積極的に行います。
- ・高校、大学のインターンシップの受け入れを積極的に行います。



【 職場体験の様子 】

⑤ 除籍図書の再利用

【具体的な取組】

- ・ 除籍図書の学校や幼稚園、保育所（園）など、子どもが関わっている施設での再利用促進

学校図書館、幼稚園、保育所（園）、放課後児童クラブなど、子どもが関わっている施設に児童書の要望があるのかなど、図書資料の実態やニーズを把握するため、これらを所管する関係機関との連携を強化し、児童書用除籍図書の再利用を図ります。

個人利用者向けに、春と秋の読書週間に絵本・児童書の無料配布を行います。

【取組方針】

- ・ 再利用可能な資料については、学校や幼稚園以外の子どもが関わっている施設・読み聞かせサークル・個人ボランティアへも声掛けを行い、再利用の促進に努めます。



【 譲渡会の様子 】



【 除籍図書の無料配布 】

基本施策Ⅱ 施設の充実

(1) 市立図書館の充実

子どもたちが必要としている資料を充実させ、「図書館に行けば情報が見つかる」体制を整え、読み聞かせの本や紙芝居などの資料の充実も図ります。グローバル化に対応し、楽しんで英語を身につけられる「英語多読コーナー」を充実させ、郷土出身作家の児童書や郷土を題材にした視聴覚資料の収集も行います。

また、視聴覚資料を利用し、子どもと図書館とのつながりを深めるため、ビデオ上映会を行います。上映作品の内容については検討を行い、鑑賞者の興味と関心に配慮し、評価や質の高い作品の上映を心がけます。

◆ 第3次計画の具体的な取組と取組方針

① 図書資料、視聴覚資料の充実

【具体的な取組】

- ・ 現在の蔵書に加え、調べ学習に対応できる資料の充実を図ります。
質、量ともに調べ学習に対応できる資料の充実を図るほか、読み聞かせの本や紙芝居などを積極的に購入します。
- ・ 図書館に親しむことができるような児童向けの視聴覚資料を購入し、整備・提供します。
上映会の上映作品については内容を検討し、評価や質の高い作品の上映を行います。
視聴覚資料については、購入資料の内容を検討し、子どもたちに人気がある作品や評価の高い作品を所蔵し、上映会で上映するとともに、資料の紹介や展示を工夫し、利用者が興味を引くよう情報発信をしていきます。

【取組方針】

- ・ 児童書の貸出数240,000冊を目指します。
- ・ 上映会の観賞者数が毎回10人以上となるよう、内容を検討し、評価や質の高い作品の上映を行うよう努めます。

(2) 学校図書館の充実

学校図書館は、子どもの自由な読書活動や読書指導の場、さらには興味や関心を満たす場です。また、各教科、特別活動、総合的な学習の時間などにおいては、多様な教育活動を展開していくために学校教育の中でも中核的な役割を担っています。子どもの興味・関心にこたえられるような図書資料の充実を図る必要があります。

◆ 第3次計画の具体的な取組と取組方針

① 図書資料の充実

【具体的な取組】

- ・ 学校図書館図書標準に則った環境整備の促進
 廃棄基準に沿った図書の廃棄と、児童・生徒が手にとって読みたくなるような質が高く、役立つ図書の購入により、図書資料の充実を図ります。

【取組方針】

- ・ 学校図書館図書標準を満たす学校の割合が、小学校95%、中学校70%以上になるよう図書資料の充実を図ります。

<学校図書館図書標準>

ア. 小学校

学級数	蔵書冊数
1	2,400
2	3,000
3	3,520
4	4,040
5	4,560
6	5,080
7	5,560
8	6,040
9	6,520
10	7,000
11	7,480
12	7,960
13	8,360
14	8,760
15	9,160
16	9,560
17	9,960
18	10,360
19	10,560
20	10,760
21	10,960
22	11,160
23	11,360
24	11,560
25	11,760
26	11,960
27	12,160
28	12,360
29	12,560
30	12,760

イ. 中学校

学級数	蔵書冊数
1	4,800
2	4,800
3	5,440
4	6,080
5	6,720
6	7,360
7	7,920
8	8,480
9	9,040
10	9,600
11	10,160
12	10,720
13	11,200
14	11,680
15	12,160
16	12,640
17	13,120
18	13,600
19	13,920
20	14,240
21	14,560
22	14,880
23	15,200
24	15,520
25	15,840
26	16,160
27	16,480
28	16,800
29	17,120
30	17,440

② 学校図書館と市立・県立図書館のネットワークの充実

【具体的な取組】

- ・ 学校図書館と市立図書館や県立図書館の連携による資料収集の充実
学校と市立図書館、県立図書館が連携し、各種図書資料などの貸出や情報交換ができるように努めます。

【取組方針】

- ・ 学校図書館司書と市立図書館司書との情報交換や研修を年に2回以上実施します。
- ・ 県立図書館とのネットワーク構築をすべての小・中学校で実施します。

③ 学校図書館への人的配置の推進

【具体的な取組】

- ・ 学校図書館司書の維持及び学校図書館支援ボランティアの活用
現在の学校図書館司書の配置を維持（専任19名、兼任6名 計25名）し、公立図書館との連携や、校内体制の充実を図ります。

【取組方針】

- ・ ボランティアの活用も含め、学校図書館司書の配置を維持できるよう努めます。

<参考>

平成24年度	図書館司書10名配置
平成25年度	図書館司書16名配置
平成28年度	図書館司書22名配置
平成29年度～	図書館司書25名配置

(3) デジタル社会に対応した読書活動の整備

地域の教育力向上に向けて、ICTなどの新しい技術を活用しつつ、多様な主体と連携、協働しながら魅力的な教育活動を展開し、ひとづくり、地域づくりを行う取組を促進します。

デジタル基盤を強化するとともに、デジタル技術を活用することで、地域の教育力や市民全体のデジタルリテラシーを向上させ、デジタル田園都市国家構想の実現に貢献していきます。

言語能力や情報活用能力を育むとともに、多様な子どもたちの読書機会の確保、非常時における図書館等への継続的なアクセスを可能とするために、子どもたちの健康や発達段階等に配慮しつつ電子書籍等の利用を進める必要があります。

◆ 第3次計画の具体的な取組と取組方針

① 図書館のDXの推進

【具体的な取組】

- ・ 読書機会の確保や継続的な提供を目的とした電子書籍の導入の検討

言語能力や情報活用能力を育むとともに、多様な子どもたちの読書機会の確保、非常時における図書館等への継続的なアクセスを可能とするため、電子書籍の導入を検討します。

【取組方針】

- ・ 音声と一緒に文字や画像が表示されるデジタル図書を導入します。
- ・ 非常時に図書館を利用できるよう、広域電子図書館も含め、メリットやデメリット、費用負担の方法等、先進地の事例等を調査しながら、電子書籍の導入の検討を行います。

② タブレット端末を活用した読書・学習環境の整備

【具体的な取組】

- ・ 学校図書館司書へのタブレット端末の整備

児童・生徒や教員と同じような一人一台端末の環境で、支援ができる体制づくりを段階的に図ります。

- ・ ICTの活用による子どもが読書に親しむ取組の促進

オンラインでの読み聞かせやブックトーク、読書記録アプリの活用、電子書籍の導入の検討など子どもたちの読書や学習に効果的な取り組みの充実を図ります。

【取組方針】

- ・ 学校図書館司書一人一台のタブレット端末を、令和10年度までに100%整備します。
- ・ ICTの活用による子どもが読書に親しむ取組を年間2回以上行います。



【 タブレット端末を活用した取組の様子 】

基本施策Ⅲ 連携・協働

(1) 図書館相互の連携・協働

県立図書館や市町村図書館と大分県の所蔵資料横断検索システムを通じて図書資料の相互貸借を行っています。また、県立図書館主催の研修会や講習会に参加し情報を共有することで、子どもの読書活動の推進に関する知識と情報の収集に努めています。

また、図書館と学校図書館との連携強化のため、学校図書館司書との連絡を密に行っており、学校図書館司書は学校からの図書資料に関する要望を取りまとめて図書館に貸出し依頼を行い、図書館はその要望に応じ、リクエストやレファレンス対応の強化を目指しています。市立図書館及び学校図書館司書が互いの職場に出向き、図書資料に関する相談や図書の貸出しを行い、意見交換をするなど連携の強化を図ります。

◆ 第3次計画の具体的な取組と取組方針

① 県立図書館、市町村立図書館との連携の強化

【具体的な取組】

・県立図書館との連携

県立図書館を中心とした相互貸借に加え、子どもの調べ学習にも対応した貸借や、レファレンス支援（資料相談や資料参照と呼ばれるサービス）を受けるなどして情報を共有し、連携強化を図ります。

・市町村立図書館

県内の市町村図書館からの総合貸借を推進します。また、県内未所蔵資料はインターネットを利用し図書館が調査して他県からの資料の相互貸借も進めます。それぞれの図書館が実施している子どもの読書活動推進に関する知識と情報共有による連携を強化します。

【取組方針】

・大分県の所蔵資料横断検索システム等を通じ、相互貸借の推進を行います。

② 市立図書館と学校図書館との連携、貸借や情報交換の強化

【具体的な取組】

・学校図書館司書との連携及び情報交換強化

図書館と学校図書館との連携強化のため学校図書館司書との連絡を密にし、学校図書館司書は学校からの要望を依頼し、図書館はそれに対して、リクエストやレファレンス対応の強化を行います。また、互いの職場に出向き、図書資料に対する相談や図書の貸出しなどを行い、意見の交換をすることで相互に交流を図ります。

【取組方針】

- ・市立図書館と学校図書館との連携及び情報交換の強化を図ります。
- ・学校図書館が必要とする図書資料をより多く提供できるよう学校図書館に働きかけを行います。

(2) 図書館と関係機関(団体)との連携・協働

中津市立図書館では、広く市民の意見、要望を把握するため、市の関係課が所管する子どもの読書に関わる団体・個人で構成される図書館協議会を設置しています。図書館協議会での委員からの意見・要望に対応するため、関係機関と連携し市民サービスの向上のため計画的に取り組みを行っています。

また、読み聞かせボランティアは、図書館の読み聞かせ事業において不可欠な存在となっており、特に連携を密にして事業を行っています。このように、子どもの読書活動を円滑に推進していくために関係機関と連携・協働し、情報を共有することにより、中津市全体で子どもの読書活動を推進する協力体制を構築するため、関係機関との定期的な連絡調整を行う必要があります。

◆ 第3次計画の具体的な取組と取組方針

① 市立図書館と関係機関(団体)との連携・協働

【具体的な取組】

・ 関係機関(団体)との連携及び協働、定期的な情報交換

子どもの読書活動を円滑に推進していくために、幼稚園、保育所(園)、小中学校及び高等学校、家庭、地域などと連携を密にして、関係機関(図書館協議会等)と定期的な情報交換を行う中で、子どもの読書活動を推進します。

【取組方針】

- ・ 学校・家庭・地域等の関係を図るために関係各課と協議を進め、ネットワークづくりに努めます。
- ・ 図書館協議会は年2回以上開催します。



【 図書館協議会の様子 】

◆第3次計画における取組指標一覧

項目	指標名	基準値	最終目標値	
		(R4年度)	(R10年度)	
I-(1)-①	「赤ちゃん絵本の読み聞かせ事業」での絵本の受渡し率	75%	80%	
I-(2)-⑤	なかつ・こどもいきいきプレイルーム内にある「お話の泉」の蔵書数	300冊	330冊	
I-(3)-①	保育所・認定こども園の読み聞かせボランティアの利用率	3%	20%	
I-(4)-①	一斉読書実施(週2回以上)	小学校	90%(朝読書の実施、頻度の目安はなし)	100%
		中学校	100%(朝読書の実施、頻度の目安はなし)	90%以上
I-(4)-①	学校図書館活用授業の実施(学期に数回以上)	小学校	81%(月に1回)	90%以上
		中学校	30%(月に1回)	70%以上
I-(5)-②	18歳以下の子どもの図書館カード登録率	67.9%	90%以上	
II-(1)-①	市立図書館での児童書の貸出数	202,991冊	240,000冊	
II-(2)-①	学校図書館図書標準を満たす学校の割合	小学校	90.4%	95%以上
		中学校	70%	70%以上
II-(3)-②	学校図書館司書一人一台のタブレット端末の整備の割合	—	100%	

※ I-(4)-①については、第2次の指標と第3次の指標を変更(具体化)しているため、基準値のR4年度と最終目標値のR10年度との比較した場合、値が基準値>目標値となるものがあります。

- ┌ 第2次の指標・・・朝読書の推進
- └ 第3次の指標・・・一斉読書実施(週2回以上)
- ┌ 第2次の指標・・・学校図書館活用授業の推進(月1回以上)
- └ 第3次の指標・・・学校図書館活用授業の実施(学期に数回以上)